

## 現代文『舞姫』の授業実践報告とその展望：「あなたが豊太郎ならどうしますか？」が問うもの

岩下, 祥子  
北九州工業高等専門学校：非常勤講師

<https://doi.org/10.15017/1787560>

---

出版情報：九大日文. 26, pp.2-9, 2015-10-01. 九州大学日本語文学会  
バージョン：  
権利関係：

# 現代文『舞姫』の授業実践報告とその展望

——「あなたが豊太郎ならどうしますか？」が問うもの——

岩下 祥子  
IWAHATA  
YASUKO

## 一 教室での『舞姫』を難しくしているもの

森鷗外『舞姫』（初出「国民之友」一八九〇年一月）は今なお日本の高等学校の現代文の教科書に掲載され続けている定番の国語教材である。昭和三〇年代以後各時代で、近代的自我の照射、文語体に親しむ、「友情」と「恋愛」を深く考える等、高校生にふさわしい教材として支持されてきたが、それゆえに定番化とともに「授業自体も硬直化したものとなっていく」と危惧されている<sup>①</sup>。その上、

『舞姫』は、「現代文」の教科書では多くは後半に配置されており、目次どおりならば三年の二学期以降の授業で扱うことになる。大学入試を控えた時期に、かなりの分量のある文語体の小説教材は授業では取り上げにくいと考えるむきもあるのではなからうか。『舞姫』を採録した教科書

を使用するすべての高等学校で『舞姫』が授業されているとは考えにくい。<sup>②</sup>

とあるように、教科書に採録されていても『舞姫』が授業教材として取り上げられない場合も多分にある。つまり『舞姫』は教科書採録の支持を得ながらも、授業での採用が難しく、高校二年時に授業がなされる『こゝろ』や『山月記』に比して生徒に読まれずに終わることの多い名作であるだろう。昨今のセンター試験対策重視のカリキュラムのもとでは、出題頻度が低くそれでいて読解に授業時間を要する擬古文体の『舞姫』が遠ざけられる現実は避けがたいのかもしれない。そういった教材としての扱いにくさの一面が影響しているのか、最近では『舞姫』そのものが難解とされ、高校生の短絡的な理解を招く作品として教科書に不要とする声も一部にある。あるインターネット上のサイトでは「高校教科書に舞姫は要らない！明治のクズ男太田豊太郎」というテーマの元でツイッターのやりとりが交わされており、〈留学先で恋人が身ごもったにもかかわらず、保身のために帰国する主人公が語る話〉が教材となっていることを疑問視する声があがっている<sup>③</sup>。このような声もある中『舞姫』で授業を行う際には、当然教える側のモチベーションが問われていると言つてよいであろう。

では教える側にとって『舞姫』はどのような教材なのだろうか。教員用の教授資料を見てみると、

この作品を安易に授業で取り扱おうと、多くの生徒は『舞姫』嫌い、鷗外嫌いになってしまふ。「難しい古典みたいな言葉」で描かれた、「エリートが外国の少女を妊娠させて捨てる話」という形に集約されてしまふのである。<sup>(4)</sup>

と書かれており、先に挙げたような批判的な声を把握しているようである。あるいは、実際に授業をした教師も『舞姫』を読む「ねらい」の一つに「ありがちな豊太郎批判・エリス批判の読みから脱却」を挙げている<sup>(5)</sup>。教える側が「ありがちな豊太郎批判」に待ったをかける理由は、時代と状況を考慮すれば豊太郎の帰国を一方的に非難することは出来ないから、ということになるだろう。この「豊太郎批判」をめぐる一連がいざ授業をする者と受ける者の眼前になるとどうなるのか、教授資料には次のように書かれている。

教師がいくら「近代的自我の苦悩と挫折」について熱弁を振るつたとしても、生徒にしてみれば、「そんな昔の話、知らないしいー」というレベルに過ぎない。<sup>(6)</sup>

「近代的自我」は『舞姫』を読解する際の最重要キーワードとも言えるだろう。しかし一方でこの言葉が『舞姫』を教える際の陥穽となつていても言えないだろうか。「そんな昔の話、知らない」というのは、違う時代の自分たちには共感が難しいという意味の「知らない」ということであり、それならば教員

もまた「近代的自我の苦悩と挫折」を「知らない」のである。それをふまえると、学生を「知らないしいー」と言う若者」という枠組みで捉え、知っている者（教師）が知らない者（学生）に教えるという構図が先行している印象がぬぐえない。その構図に従うために「近代的自我」というテクニカルタームが用いられ、儒教的、封建的風潮の強い日本でエリートとして育った一人の男性の苦悩であると、『舞姫』の読みを時代に閉じ込めてしまふのである。

たしかに『舞姫』は話が進むにつれ豊太郎の無責任さが浮き彫りになり、エリスを深く傷つけて終わる、救いようの無い物語である。教室から豊太郎を批判する声が一つも出ないことが異様であるだろう。「豊太郎サイテー」<sup>(7)</sup>という「反応」はごく自然と言える。しかしその「反応」と、「エリートが外国の少女を妊娠させて捨てる話」と「集約」してしまうことは同じではない。「サイテー」という感想は登場人物に心情を重ねたからこそ出る言葉であるが、そのような学生が前記のような集約をした場合には、その学生にとつて、授業を通して豊太郎が他人事になっていったということである。ここに、『舞姫』を難しくしているのは、教える側かもしれないという疑念が浮かぶのである。

以上のように授業で取り扱いつらいという傾向にある『舞姫』であるが、学生にとつてはどうだろうか。本当に『舞姫』は受身で学ぶしかなく、教材としての必要性を危ぶまれるほど、意味のない作品であるだろうか。本稿では実際の授業を通して得

た学生の反応を紹介すると共に、どのように『舞姫』が今日にうったえうるか、一つの事例として報告する。

## 二 授業方法

本報告の元となる授業は工業高等専門学校三年生を対象に行ったものである。学生の音読、文章の読解等に時間が要されることを予め想定し、望ましくないことではあるが、豊太郎とエリスの出会いからを授業で取り扱い<sup>8)</sup>、その場面までは本文を引用しながらあらすじを紹介した。この際原作に忠実に漫画化されている『コミック版 舞姫』（ホーム社、二〇一〇年七月）がストーリーを理解する上で助けとなった。

使用した教科書『現代文B』（教育出版）の『舞姫』は本文の横に所々口語訳が小さく書かれている。また古文の読解に慣れ親しんでいない高専生であるので全文口語訳を課すことはせず、意味が取りづらい箇所は随時こちらで口語訳を教えた。これは学生の訳の正誤にこだわるあまり、教室全体が物語への集中力を欠いてしまうことが危惧されたことも理由である<sup>9)</sup>。教授資料による授業展開例では授業時間数は一〇時間、豊太郎とエリスの出会いの場面以降には七時間で計画されているが、今回はその二倍となる一四時間を費やした<sup>10)</sup>。

学生には予め課題として予習プリントを配り、語句の意味調べと読解の手がかりとなる設問を解かせている。授業中は予習プリントの学生の回答を尋ねながら、それを肉付けしていくよ

うに進めていくため、たとえ拾い読みであつても学生は事前に本文に目を通したようだった。本文中の指示語を明らかにするなど基本的作業も行ったが、受験対策の授業ではないため、何を問われるかに備えるよりも、登場人物の気持ちになつて読むよう指示した。

## 三 授業風景——感情移入の効用——

長谷川充は『舞姫』に描かれる《恋愛》に対して生徒は嫌悪感を感じるのである<sup>11)</sup>と述べ、テクスト内から考えられる例として二つ<sup>12)</sup>、ひたすらに愛情を寄せたエリスを裏切る豊太郎への嫌悪と、「媚態」を以て金銭を得ようと豊太郎を引き留めたエリスへの嫌悪を挙げている。その嫌悪の理由を長谷川は、

生徒が幻想として求めている《恋愛》は、金や地位、社会的状況に左右されないような純粹にして根源的な永遠の《恋愛》、自己を絶対的に保証してくれるような、純粹な肯定としての《恋愛》なのである。<sup>13)</sup>

という無垢な恋愛観を崩される「挫折」に見ている。であるならば『舞姫』ほど分かりやすく「根源的な恋愛」を読める作品は無いだろう。渡辺春美は「高校三年生という時期は恋愛に憧れをもちながら同時にその現実的な在り方に関心を寄せる時期であり」「高校生が最も深い関心を寄せる作品の一つ」が『舞

姫』であると言う<sup>43)</sup>。それは一概に言えないが、たしかに『舞姫』と学生との間には「恋愛」を通してシンパシーが起こり、それが積極的な作品理解に繋がっている。例えば、豊太郎がエリスを初めて見たときの場面である。

年は十六、七なるべし。かむりし巾を洩れたる髪の色は、薄きこがね色にて、着たる衣は垢つき汚れたりとも見えず。わが足音に驚かされて顧みたる面、余に詩人の筆なればこれを写すべくもあらず。この青く清らにて物問ひたげに愁ひを含める目の、半ば露を宿せる長き睫毛におほはれたるは、何故に一顧したるのみにて、用心深きわが心の底までは徹したるか。

ここでは無論、エリスの美貌に対する感動が書かれているのであるが、豊太郎が記憶を書き起こす手記であることをふまえると、恋が訪れた衝撃という要素も含まれているだろう。一目惚れとまではいかないまでも、それに類する描写であり、学生も場面を想像するにたたくくない。それにたすけられて「余に詩人の筆なればこれを写すべくもあらず」や「何故に一顧したるのみにて、用心深きわが心の底までは徹したるか」という、普段なら難解に感じられる一文も、共感をもつて読むことが出来る。これはエリスが初めて豊太郎の部屋を訪ねる場面も同様であった。「自らわが僑居に來し少女は、シヨオペンハウエルを右にし、シルレルを左にして、終日兀座するわが読書の窓下

に、一輪の名花を咲かせてけり」という一文が意味することを学生に問えば、シヨオペンハウアーやシルラーを知らずとも、「エリスが来ていつもの自分の部屋ではないように感じた」と返答があり、婉曲的な文章の解説を楽しむ様子も見られた。豊太郎がエリスに惹かれていく過程は作中もつとも学生が身近に感じられるところかもしれない。明治時代の国を担うエリートという外在的なものへの共感はいが、「感慨の刺激」に苦しんだ豊太郎が「美しき、いぢらしき」エリスとの恋に活路を見出す心情は深く理解出来ることと思う。この箇所に対する学生の共感力を授業に生かすことが肝要であると考え。

豊太郎とエリスは「離れがたき仲」になり「憂きがなかにも楽しい月日」に至るまでが幸福の絶頂である。先の学生の共感力が持続していれば、幸福の絶頂からの物語展開に注意深くなるであろう。エリスの妊娠発覚の後、相沢に呼ばれて天方伯に会いに行く場面では、エリスが一人で話す、わずか数行に様々な感情が読み取れる。

「これにて見苦しとは誰もえ言はじ。わが鏡に向きて見たまへ。何故にかく不興なる面もちを見せたまふか。われももるともに行かまほしきを。」少し容を改めて、「否、かく衣を改めたまふを見れば、なにとなくわが豊太郎の君とは見えず。」また少し考へて、「たとひ富貴になりたまふ日はありとも、われをば見棄てたまはじ。わが病は母のたまふごとくならずとも。」

嬉々として豊太郎の身なりを整えたエリスが、沈黙する彼の顔色のみで心中を察したかのように言葉を変化させていく。思慮深く慎重な豊太郎と対極的に、情熱的で行動力のあるエリスの印象があるが、この箇所エリスの鋭い観察力が確認される。これらの授業を通して学生の方でも意識的に余白を読むようになっていった。それが好例となつて表れたのは、ロシアの豊太郎に宛てたエリスの「ほど経ての文」である。

否、君を思ふ心の深き底をば今ぞ知りぬる。君は故里に頼もしき族なしとのたまへば、この地によき世渡りの生計あらば、とどまりたまはぬことやはある。またわが愛もてつなぎ留めではやまじ。それもかなはで東に帰りたまはんとならば、親とともに行かんはやすけれど、かほどに多き路用をいづくよりか得ん。いかなる業をなしてもこの地にとどまりて、君が世に出でたまはん日をこそ待ためと常には思ひしが、しばしの旅とて立ち出でたまひしよりこの二十日ばかり、別離の思ひは日にけに茂りゆくのみ。袂を分かつはただ一瞬の苦艱なりと思ひしは迷ひなりけり。

「文をば否といふ字にて起こし」ており、このように始まる手紙は学生の常識の範疇ではない。学生に「この「否」は何を否定しているのか」と尋ねたところ「簡単にロシアに行かせてしまったことを後悔している」という答えが返つてきた。この答

えの根拠には、ロシア行き前の「旅立ちのことにはいたく心を悩ますとも見えず。偽りなきわが心を厚く信じたれば。」という、豊太郎から見たエリスの様子描写がある。それに重ねて「第一の文」でエリスは豊太郎が旅立つた日の夜について「次の朝目覚めし時は、なほ独りあとに残りしことを夢にはあらずやと思ひぬ」と書いている。これらを合わせると、尋常ではない心細さを感じていながら、豊太郎のロシア行きに対し浮かぬ顔を見せなかつたことはエリスの意思であることが読み取れる。学生の回答はその点をよく捉えたものだろう。引用文の中で言うならば、「否」は最後の「袂を分かつはただ一瞬の苦艱なりと思ひしは迷ひなりけり」を集約したものである。その説明と学生の回答とを合わせた授業によつて、妊娠を境に文章上に見え難くなつたエリスの心情を積極的に推察することが出来た。

高校生が「純粋な肯定としての恋愛」を求めているか否かは分からない。しかし長谷川が「金や地位、社会的状況に左右されない」と述べるように「根源的な永遠の《恋愛》」は外在物ではない、人が備えた基本的な感情である。『舞姫』の教材としての強みは、誰もが持つ「根源的な《恋愛》」が軸にあることだろう。物語が悲劇的な結末へと進んでいったとしても、前半の豊太郎とエリスの恋愛に共感があれば、なおのこと作品理解は深まると言える。作品全体の解釈や、問題意識をもつて読むことは文学をより楽しむ大事な作業である。その作業のためにも、まずは学生が『舞姫』そのものに興味を持つ時間や契機

が必要なのである。

#### 四 教材としての『舞姫』展望——自分の言葉を知ること——

『舞姫』を授業で扱うとなったとき、豊太郎や相沢の言動を問いた。だがことが「正しい恋愛」「正しい友情」という価値観の刷り込みにつなが<sup>14)</sup>るのではと案じる。その刷り込みを避けようとすると「下手をすると現代文は答えはいくつあっても良いんだと思わせてしまう」<sup>15)</sup>恐れがある。正解は一つではないということが、何でも有りだということにはならない。たしかに「正しい恋愛」や「正しい友情」のあり方を押しつけてはならないし、また、「正しい」という言葉も、正誤に二分される印象があり良くない。ただ、エリスは豊太郎との恋愛を経て治癒の見込みがないパラノイアになったのである。一人の少女の心が二度と元に戻らないほどに深く傷を負ったということは物語内の事実である。それをふまえて自分ならどうするかを考えさせなければならない。

予習プリントに作品を通して太田豊太郎について思うことを学生に書かせたところ、やはり「最低」や「優柔不断」などの言葉が多く見られた。しかし「不運な主人公」や「操り人形になつてしまった被害者」というような、豊太郎を哀れむ声もあった。また「仕事に対しても、恋愛に対しても、責任を持つべきところをもつてほしかった」という願望で書いている学生もあり、豊太郎の後悔を酌んでいるとも読めるだろう。『舞姫』

は、豊太郎の悔恨が読者に二の舞を避けるよう示唆しているとも受け取れるのである。授業前に書かれたこれらを見ると、教員が誘導しなくとも、豊太郎批判一色にはならなかったことが窺える。自分が意見を持ち、異なる意見と出会う契機となることも授業を行う教員の役割の一つであるだろう。

ある学生は豊太郎について思うことを次のように書いていた。

もつと旅をさせればよかった。いくらエリートでも逆境に對してどう行動するか、など、自分と向き合う時間をつくれなかったミスだと思う。結局は環境がその人を大きく左右するんだなと思った。

この意見を興味深く感じるのには理由がある。予習プリントの最後に学生に尋ねたのは「あなたが豊太郎ならどうしますか？」という問であった。妊娠した恋人がいる外国にとどまるか、生涯安泰を約束されている日本に帰国するか、どうするかを問う質問である。受講者は二クラスの学生であるが、仮にクラス名をA、Bとする。Aのクラスでは半数が恋人と暮らし、半数が別れると回答した。一方、Bのクラスでは恋人と別れると回答した学生は一人もおらず、全員が恋人と暮らすと回答しているのである。以下はAのクラスの回答例である。

・女を捨て一生安泰を取ります。

・ 単身で帰国し、エリスなんてどうでもよかつたと思えるような相手を探して、幸せに生きる。

・ 愛欲は最も激しく熱い感情であるが、今は先見の明を研ぎ澄ますべきである。一時の感情に人生を左右させなければならぬ理由がどこにあるのだろうか。

予習プリントを埋めた言葉がその学生の本心とは言い切れない。それは両クラスともに言えることである。ここで留意したいのは、先に引用した「環境がその人を大きく左右する」という学生の言葉である。入学時から各工学科にクラス編成され卒業まで同じ級友と過ごす高専では、学級内を自分を取り巻く「環境」と言い換えることができるだろう。つまり、たとえ本心ではなく課題のための体面上の言葉であっても、回答欄に書かれた言葉の性質に環境の差異が生じているのである。重ねて言うが、言葉の本心は分からないため、Aのクラスの学生が冷淡であるという話ではない。そしてそれはそのまま豊太郎にも言い得ることなのである。豊太郎も決して冷徹な人間ではない。しかし体面上を取り繕うあまり、悲劇を招いた。体面を繕った言葉はその環境の只中では無批判に浴け込んでいくが、豊太郎はあえてそれを書き残している。その入れ子構造の意味も含め、『舞姫』は不要とされる教材ではないはずである。

「正しい恋愛」は存在しないかも知れない。しかし、豊太郎がもし「一時の感情に人生を左右させなければならぬ理由がどこにあるのだろうか」と言ったのであれば、その「一時の感情」

ですでにエリスの人生は壊れているのである。豊太郎批判や教員の価値観の刷り込みを避けるあまり、明治二〇年における「近代的自我」の挫折に話を閉じ込めていないだろうか。苦悩の末にエリスを置いて帰国した豊太郎と同じ答えを今日の学生が書いたのであれば、それは時代的なものに回収される話ではない。学生の声を聞き、その学生にとつて「安泰」とは何か、「先見の明」とはどういうことか、「幸せに生きる」とはどのように生きることなのか、感情に左右されない人生を本当に望んでいるのか、そういった自らの言葉を問うような授業が『舞姫』には必要であるだろう。

「あなたが豊太郎ならどうしますか？」という問に答えることは、自分と自分を囲む環境とを知ることである。この問は時代を選ぶものではない。どのような回答があつたにせよ、それが学生の意見であり、その意見について教員も自らの意見を持つて共に考えるところから『舞姫』の教材としての力は発揮されるのではないだろうか。

#### 【注記】

1 伊藤誠子『舞姫』と教科書——定番教材『舞姫』を学校現場で読み続けるために——（山口国文三三三号、二〇〇九年三月）

2 前掲注1。

3 「高校教科書に舞姫は要らない〜明治のクズ男太田豊太郎〜」  
<http://ogeter.com/ir/824799>（二〇一五年九月一日現在）

4 長谷川充『現代文B 教授資料』（『現代文B』（教育出版、二〇一三年



三月検定済)に添付されたもの)

- 5 京都教育大学教育学部附属高等学校国語科「定番教材『舞姫』」5人の教師による5種類の授業」(「研究紀要」七〇巻、二〇〇一年一〇月)前掲注4。
- 6 山本良『大学生のための文学トレーニング近代編』(河野龍也・佐藤淳一他編著、三省堂、二〇一二年一月)
- 7 「ある日の夕暮れなりしが、余は獣苑を漫步して、(後略)」の段落から授業で取り扱った。
- 8 京都教育大学教育学部附属高等学校国語科による「生徒たちは興味を持つものと持たないものに二分されることが多かった。どうしても逐語訳に時間がかかり、興味を引き出す工夫が足りなかったように思う」という報告もある。(定番教材「舞姫」5人の教師による5種類の授業」(前掲))
- 9 二〇一四年度まで、北九州高専の現代文の一回の授業は五〇分×二コマの二〇〇分であった。『舞姫』の授業は七回で行った。
- 10 前掲注4。長谷川の論考では読者AとDを想定し四例の『舞姫』に見る

《恋愛》の挫折を考察しており、他の二例では鷗外と豊太郎とを重ねて見ている。

- 12 前掲注4。
- 13 渡辺春美「『舞姫』指導の試み——生徒の積極的参加を促すために——」(「国語教育研究」三三号、一九九一年一月)
- 14 前掲注1。
- 15 前掲注5。

【付記】

※本稿中、『舞姫』の引用はすべて『現代文B』(教育出版、二〇一三年三月検定済)に拠る。

※本稿は、二〇一四年度北九州工業高等学校第三学年、電子制御工学科、制御情報工学科の二クラスにおける現代文の授業の実践報告である。両クラスの学生にこの場を借りて御礼申し上げる。

(北九州工業高等学校非常勤講師)